

研究分野	漁場環境	機関・部	水産総合研究所・漁場環境部
研究事業名	資源評価調査委託事業(沖合定線観測)		
予算区分	受託研究((独)水産総合研究センター)		
研究実施期間	H17～H22		
担当者	今村 豊・大水 理晴・田中 淳也・高坂 祐樹		
協力・分担関係	日本海区水産研究所ほか2機関		

#### 〈目的〉

沖合域の海洋観測により海況に関する情報を収集・分析し、漁海況予報等の資料とするほか、水産資源の安定のための基礎資料を得る

#### 〈試験研究方法〉

青森県の日本海沖合定線、太平洋沖合定線において、CTDにより水深1,000mまでの水温等を観測する。併せてノルパックネットにより水深0～150mの鉛直曳きを行い、卵稚仔・プランクトンを採集し、サンプルは分析依頼機関へ送付する。太平洋ではニスキン採水器により水深0～150mで採水し、クロロフィルの分析を行う。

#### 〈結果の概要・要約〉

観測により得られた水温等のデータは(独)水産総合研究センターへ送信した。各調査結果に基づき、日本海における対馬暖流勢力及び太平洋における津軽暖流勢力についてウオダス漁海況速報等を通じて漁業関係者へ情報提供を行った。

##### 1 日本海(表1)

###### (1)各層最高水温

6月は0m層がやや低め、50・100m層がかなり高め。9月は0m層がやや低め、11月は50・100m層でやや高め。

###### (2)対馬暖流の流幅

6月は舩作崎線でやや広め、その他は平年並み。

###### (3)水塊深度

6月はやや深め、その他は平年並み。

###### (4)北上流量

6月はかなり強め、その他は平年並み。

###### (5)対馬暖流の勢力

6月はやや強め、その他は平年並み。

###### (6)卵稚仔出現状況(表2)

卵・稚仔共にカタクチイワシのみが出現した。前年と比較し減少した。

##### 2 太平洋(表3)

###### (1)各層最高水温

6月は0m層でかなり低め、9月は各層で平年並み。12月は0m層でかなり高め、50・100m層でやや高め。

###### (2)水塊深度

6月ははなはだ深め、9月ははなはだ浅め、12月はかなり浅め。

###### (3)津軽暖流の東方への張り出し位置

6・9月は平年並み、12月はやや弱め。

###### (4)卵稚仔出現状況(表4)

卵・稚仔共にカタクチイワシのみが出現した。前年と比較し、6月は卵・稚仔共に増加、9月は卵が増加し、稚仔が減少した。

(5)クロロフィルの分析  
分析中。

〈主要成果の具体的なデータ〉

表1 日本海における対馬暖流の流勢指標の推移

		6月	9月	11月
各層最高 水温(°C)	0m	-	-	±
	50m	++	±	+
	100m	++	±	+
流幅 (マイル)	舳作線	+	±	±
	十三線	±	±	±
水塊深度(m)		+	±	±
北上流量(Sv. (10 <sup>6</sup> m <sup>3</sup> /s))		++	±	±
対馬暖流の勢力		+	±	±

階級	平年並み	やや
平年比の範囲	±60%未満	±130%未満
記号	±	+ , -
	かなり	はなはだ
	±200%未満	±200%以上
	++ , --	+++ , ---

※平年は1963～2008年の平均値

※平年比(%) = 平年偏差/標準偏差 × 100

表2 日本海における卵稚仔出現状況(個)

			マイワシ	カタクチイワシ	サバ属
2008年	6月	卵	0	285	0
		稚仔	0	239	0
2009年	6月	卵	0	140	0
		稚仔	0	68	0

表3 太平洋における津軽暖流の流勢指標の推移

		6月	9月	12月
各層最高 水温(°C)	0m	--	±	++
	50m	±	±	+
	100m	±	±	+
水塊深度(m)		+++	---	-
張り出し位置(東経)		±	±	-

階級	平年並み	やや
平年比の範囲	±60%未満	±130%未満
記号	±	+ , -
	かなり	はなはだ
	±200%未満	±200%以上
	++ , --	+++ , ---

※平年は1963～2008年の平均値

※平年比(%) = 平年偏差/標準偏差 × 100

表4 太平洋における卵稚仔出現状況(個)

			マイワシ	カタクチイワシ	サバ属
2008年	6月	卵	0	119	0
		稚仔	0	4	0
	9月	卵	0	0	0
		稚仔	0	55	0
2009年	6月	卵	0	202	0
		稚仔	0	12	0
	9月	卵	0	6	0
		稚仔	0	38	0

〈今後の問題点〉

冬季観測を確実に実施できるように運行計画を作成する必要がある。

〈次年度の具体的計画〉

海洋観測調査指針に基づき平成21年度と同様の調査を行う。

〈結果の発表・活用状況等〉

発表：平成21年度東北ブロック水産海洋連絡会